

◎ 本説明書は「室外機と総合工事仕様」について示したものです。「室内機」については室内機に付属の「据付説明書」をご覧ください。
◎ 据付される前にこの据付説明書をよくお読みいただき、指示通り据付工事を行ってください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は「**△警告**」、「**△注意**」に区分していますが、誤った据付をした時に死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「**△警告**」の欄にまとめて記載しています。しかし「**△注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**Ⓢ** 絶対に行わない **Ⓡ** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

Ⓡ

警告

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
●据付は、販売店又は専門業者に依頼する。
●自分で据付工事をする場合があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。
●据付時やサービス時など、ユニットの作業を行う場合は電源を切ってから行う。
●感電の原因になります。
●小部屋へ据付けるときは万一冷媒が漏れても限界濃度(0.3kg/m³)を超えない対策が必要ですが、限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けます。
●据付けは重量に十分耐える所に確実に行う。
●強度が不足している場合は、ユニットの落下、転倒などにより、けがの原因になります。
●地震などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
●据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
●ユニット搬入する際、重量に適合したロープをユニット所定位置に掛けて行う。
●搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因となります。
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
●当社指定部品を使用しないと、ユニットの落下、水漏れや火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良などの原因になります。
●空気清浄機、加温器、暖房用電気ヒータなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用する。
●また、取付工事は販売店または専門業者に依頼する。ご自身で工事され、不備があると、水漏れ、感電、火災の原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
●電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する。
●接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災、感電等の原因になります。
●電気接続部にはほごりの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。
●ほごりの付着、詰まり、がたつきがあると感電、火災の原因になります。
●配線は、浮き上がらないように整形し、サービスパネルを確実に取付ける。
●取付けが不完全な場合は発熱、火災や感電の原因になります。
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
●冷媒配管が取付けられずに、操作弁開放状態で圧縮機を運転すると急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は配管うろう付け等、作業を中断する。冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
●既存（R410A用以外）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂、けが等の重大な事故の原因になります。
●フレアナットは、トルクレンチを使用しダブルパスで適正トルクで締付ける。
●フレアナットの締付けすぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒が漏洩します。フレア部の痛み、破損が発生した場合、冷媒が漏洩して事故の原因になります。
●ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
●圧縮機を運転したまま操作弁開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また圧縮機が空気を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
●冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。
●冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●冷媒配管工事、気密試験及び真空引きが完了するまでは操作弁（ガス・液側）を開けない。
●急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等、有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
●室内に有毒ガスが侵入することがあります。また、室内機を廃棄させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
●エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気を混入しない。
●空気が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。

Ⓢ

注意

●点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。
●スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるけがの原因になります。
●室外機を屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路には短くハシゴ、手すり等を、また室外機の周囲にはフェンス、手すり等を設ける。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
●据付に不備があると、異常振動・騒音増大の原因になります。
●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認する。
●万一、狭い部屋に冷媒が漏洩しては限界濃度を超えることと酸欠事故の原因になります。
●冷媒配管の防露断熱工事を行う。
●防露断熱工事に不備があると、水漏れ、露たれし、腐食等を招く原因になります。
●漏電遮断器を取付ける。
●漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になります。
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するようにし、結露が生じないように保温する。
●不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

●アース(接地)を確認を行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話や他のアース線に接続しない。アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。

●室外機は、小動物のすみかになるような場所には設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になります。また、お客様に周辺をきれいにするようお願いしてください。
●包装用のバンドを持って電線しない。
●素手で梱包用の木材を扱わない。
●可燃性ガスの漏れの恐れのある場所や引火物のある所へは設置しない。
可燃性ガスの漏れや発生、流入、漏洩の恐れのある場所やカーボン繊維が浮遊する場所では火災の原因になります。
●配管物に直接ファン吹き出し風が当たる場所には設置しない。
吹き出し風による植木等の被害の原因になります。
●室外機の上に物を置いて運転を行わない。
落下物により物が破損したり、ケガの原因となります。
●室外機の上に置かない。
落下、転倒等によりケガの原因となります。
●食品・動植物、精密機器・美術品の保存など特殊用途に使用しない。
●保存物の品質低下などの原因になることがあります。

冷媒R410A対応機としての注意点

●R410A以外の冷媒を使用しないでください。R410Aは従来の冷媒（R22、R407C）に比べ圧力が約1.6倍高くなります。R410Aはボンベ上部に桃色の表示があります。

●R410A機は、他冷媒の誤封入防止のため室外機操作弁のチェックジョイント径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対辺寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には右表に示すR410A専用ツールを準備してください。

●チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

●冷媒封入は必ず液相で取り出して行ってください。

●室内機はR410A専用機となります。接続可能な室内機はカタログ等で確認してください。（他の室内機を接続すると正常運転できません）

R410A専用ツール

a	ゲージマニホールド
b	チャージホース
c	冷媒充填用電圧はかり
d	トルクレンチ
e	フレアツール
f	出し代調整用銅管ゲージ
g	真空ポンプアダプター
h	ガス漏れ検知器

2. 据付場所（お客様の承認を得て据付場所を選んでください。）

2-1. 据付場所の選定

○空気取こもらない所

○他の熱源から熱放射を受けない所

○ドレン水が流れてもよい所

○テレビやラジオの周囲から5m以上離れた場所（電氣的障害を受ける場合は更に規制を受けない場所）

○吸込・吹出口に風の障壁物のない所

○吹出口に強風が当たらない所

○騒音や熱風が隣家に迷惑をかけない所

○積雪で埋まらない所

お願い

(ア)ショートサーキットの恐れのある場合は風向アダプタを取付けてショートサーキットを防止してください。
(イ)複数台設置する場合は特にショートサーキットが生じないように吸込みスペースを十分確保してください。
(ウ)降雪地では積雪で埋まらないよう架台および防雪フードを設けてください。
(降雪地では集中排水はしないでください。)

(エ)可燃性ガスの漏れの恐れのある場所へは設置しないでください。
(オ)ユニットの重量に十分耐えられる場所には確実に設置してください。
(カ)次の様な特殊な場所に据付けられる場合は、腐食や故障の原因になりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
・腐食性ガスの発生する所（温泉地等）。
・潮風が当たる所（海浜地区）。
・油煙が立ちこめる所。
・電磁波を発生する機械のある所。

ご注意

必ず据付スペースを確保ください。
ショートサーキットで圧縮機・電装品故障の原因となります。

2-2. 据付スペース（サービススペース）例

サービススペース（メンテナンス、人の通路、風路、現地配管スペース）を十分確保してください。
(本図の施工条件にあてはまらない場合は、代理店または弊社にご相談ください。)

①単台設置の場合

壁高さH3

壁高さH2

壁高さH1

壁高さH4

壁高さH5

壁高さH6

壁高さH7

壁高さH8

壁高さH9

壁高さH10

壁高さH11

壁高さH12

壁高さH13

壁高さH14

壁高さH15

壁高さH16

壁高さH17

壁高さH18

壁高さH19

壁高さH20

壁高さH21

壁高さH22

壁高さH23

壁高さH24

壁高さH25

壁高さH26

壁高さH27

壁高さH28

壁高さH29

壁高さH30

壁高さH31

壁高さH32

壁高さH33

壁高さH34

壁高さH35

壁高さH36

壁高さH37

壁高さH38

壁高さH39

壁高さH40

壁高さH41

壁高さH42

壁高さH43

壁高さH44

壁高さH45

壁高さH46

壁高さH47

壁高さH48

壁高さH49

壁高さH50

壁高さH51

壁高さH52

壁高さH53

壁高さH54

壁高さH55

壁高さH56

壁高さH57

壁高さH58

壁高さH59

壁高さH60

壁高さH61

壁高さH62

壁高さH63

壁高さH64

壁高さH65

壁高さH66

壁高さH67

壁高さH68

壁高さH69

壁高さH70

壁高さH71

壁高さH72

壁高さH73

壁高さH74

壁高さH75

壁高さH76

壁高さH77

壁高さH78

壁高さH79

壁高さH80

壁高さH81

壁高さH82

壁高さH83

壁高さH84

壁高さH85

壁高さH86

壁高さH87

壁高さH88

壁高さH89

壁高さH90

壁高さH91

壁高さH92

壁高さH93

壁高さH94

壁高さH95

壁高さH96

壁高さH97

壁高さH98

壁高さH99

壁高さH100

壁高さH101

壁高さH102

壁高さH103

壁高さH104

壁高さH105

壁高さH106

壁高さH107

壁高さH108

壁高さH109

壁高さH110

壁高さH111

壁高さH112

壁高さH113

壁高さH114

壁高さH115

壁高さH116

壁高さH117

壁高さH118

壁高さH119

壁高さH120

壁高さH121

壁高さH122

壁高さH123

壁高さH124

壁高さH125

壁高さH126

壁高さH127

壁高さH128

壁高さH129

壁高さH130

壁高さH131

壁高さH132

壁高さH133

壁高さH134

壁高さH135

壁高さH136

壁高さH137

壁高さH138

壁高さH139

壁高さH140

壁高さH141

壁高さH142

壁高さH143

壁高さH144

壁高さH145

壁高さH146

壁高さH147

壁高さH148

壁高さH149

壁高さH150

壁高さH151

壁高さH152

壁高さH153

壁高さH154

壁高さH155

壁高さH156

壁高さH157

壁高さH158

壁高さH159

壁高さH160

壁高さH161

壁高さH162

壁高さH163

壁高さH164

壁高さH165

壁高さH166

壁高さH167

壁高さH168

壁高さH169

壁高さH170

壁高さH171

壁高さH172

壁高さH173

壁高さH174

壁高さH175

壁高さH176

壁高さH177

壁高さH178

壁高さH179

壁高さH180

壁高さH181

壁高さH182

壁高さH183

壁高さH184

壁高さH185

壁高さH186

壁高さH187

壁高さH188

壁高さH189

壁高さH190

壁高さH191

壁高さH192

壁高さH193

壁高さH194

壁高さH195

壁高さH196

壁高さH197

壁高さH198

壁高さH199

壁高さH200

壁高さH201

壁高さH202

壁高さH203

壁高さH204

壁高さH205

壁高さH206

壁高さH207

壁高さH208

壁高さH209

壁高さH210

壁高さH211

壁高さH212

壁高さH213

壁高さH214

壁高さH215

壁高さH216

壁高さH217

壁高さH218

壁高さH219

壁高さH220

壁高さH221

壁高さH222

壁高さH223

壁高さH224

壁高さH225

壁高さH226

壁高さH227

壁高さH228

壁高さH229

壁高さH230

壁高さH231

壁高さH232

壁高さH233

壁高さH234

壁高さH235

壁高さH236

壁高さH237

壁高さH238

壁高さH239

壁高さH240

壁高さH241

壁高さH242

壁高さH243

壁高さH244

壁高さH245

壁高さH246

壁高さH247

壁高さH248

壁高さH249

壁高さH250

壁高さH251

壁高さH252

壁高さH253

壁高さH254

壁高さH255

壁高さH256

壁高さH257

壁高さH258

壁高さH259

壁高さH260

壁高さH261

壁高さH262

壁高さH263

壁高さH264

壁高さH265

壁高さH266

壁高さH267

壁高さH268

壁高さH269

壁高さH270

壁高さH271

壁高さH272

壁高さH273

壁高さH274

壁高さH275

壁高さH276

壁高さH277

壁高さH278

壁高さH279

壁高さH280

壁高さH281

壁高さH282

壁高さH283

壁高さH284

壁高さH285

壁高さH286

壁高さH287

壁高さH288

壁高さH289

壁高さH290

壁高さH291

壁高さH292

壁高さH293

壁高さH294

壁高さH295

壁高さH296

壁高さH297

壁高さH298

壁高さH299

壁高さH300

壁高さH301

壁高さH302

壁高さH303

壁高さH304

壁高さH305

壁高さH306

壁高さH307

壁高さH308

壁高さH309

壁高さH310

壁高さH311

壁高さH312

壁高さH313

壁高さH314

壁高さH315

壁高さH316

壁高さH317

壁高さH318

壁高さH319

壁高さH320

壁高さH321

壁高さH322

壁高さH323

壁高さH324

壁高さH325

壁高さH326

壁高さH327

壁高さH328

壁高さH329

壁高さH330

壁高さH331

壁高さH332

壁高さH333

壁高さH334

壁高さH335

壁高さH336

壁高さH337

壁高さH338

壁高さH339

壁高さH340

壁高さH341

壁高さH342

壁高さH343

壁高さH344

壁高さH345

壁高さH346

壁高さH347

壁高さH348

壁高さH349

壁高さH350

壁高さH351

壁高さH352

壁高さH353

壁高さH354

壁高さH355

壁高さH356

壁高さH357

壁高さH358

壁高さH359

壁高さH360

壁高さH361

壁高さH362

壁高さH363

壁高さH364

壁高さH365

壁高さH366

壁高さH367

壁高さH368

壁高さH369

壁高さH370

壁高さH371

壁高さH372

壁高さH373

壁高さH374

壁高さH375

壁高さH376

壁高さH377

壁高さH378

壁高さH379

壁高さH380

壁高さH381

壁高さH382

壁高さH383

壁高さH384

壁高さH385

壁高さH386

壁高さH387

壁高さH388

壁高さH389

壁高さH390

壁高さH391

壁高さH392

壁高さH393

壁高さH394

壁高さH395

壁高さH396

壁高さH397

壁高さH398

壁高さH399

壁高さH400

壁高さH401

壁高さH402

壁高さH403

壁高さH404

壁高さH405

壁高さH406

壁高さH407

壁高さH408

壁高さH409

壁高さH410

壁高さH411

壁高さH412

壁高さH413

壁高さH414

壁高さH415

壁高さH416

壁高さH417

壁高さH418

壁高さH419

壁高さH420

壁高さH421

壁高さH422

壁高さH423

壁高さH424

壁高さH425

壁高さH426

壁高さH427

壁高さH428

壁高さH429

壁高さH430

壁高さH431

壁高さH432

壁高さH433

壁高さH434

壁高さH435

壁高さH436

壁高さH437

壁高さH438

壁高さH439

壁高さH440

壁高さH441

壁高さH442

壁高さH443

壁高さH444

壁高さH445

壁高さH446

壁高さH447

壁高さH448

壁高さH449

壁高さH450

壁高さH451

壁高さH452

壁高さH453

壁高さH454

壁高さH455

壁高さH456

壁高さH457

壁高さH458

壁高さH459

壁高さH460

壁高さH461

壁高さH462

壁高さH463

壁高さH464

壁高さH465

壁高さH466

壁高さH467

壁高さH468

壁高さH469

壁高さH470

壁高さH471

壁高さH472

壁高さH473

壁高さH474

壁高さH475

壁高さH476

壁高さH477

壁高さH478

壁高さH479

壁高さH480

壁高さH481

壁高さH482

壁高さH483

壁高さH484

壁高さH485

壁高さH486

壁高さH487

壁高さH488

壁高さH489

壁高さH490

壁高さH491

壁高さH492

壁高さH493

壁高さH494

壁高さH495

壁高さH496

壁高さH497

壁高さH498

壁高さH499

壁高さH500

壁高さH501

壁高さH502

壁高さH503

壁高さH504

壁高さH505

壁高さH506

壁高さH507

壁高さH508

壁高さH509

壁高さH510

壁高さH511

壁高さH512

壁高さH513

壁高さH514

壁高さH515

壁高さH516

壁高さH517

壁高さH518

壁高さH519

壁高さH520

壁高さH521

壁高さH522

壁高さH523

壁高さH524

壁高さH525

壁高さH526

壁高さH527

壁高さH528

壁高さH529

壁高さH530

壁高さH531

壁高さH532

壁高さH533

壁高さH534

壁高さH535

壁高さH536

壁高さH537

壁高さH538

壁高さH539

壁高さH540

壁高さH541

壁高さH542

壁高さH543

壁高さH544

壁高さH545

壁高さH546

壁高さH547

壁高さH548

壁高さH549

壁高さH550

壁高さH551

壁高さH552

壁高さH553

壁高さH554

壁高さH555

壁高さH556

壁高さH557

壁高さH558

壁高さH559

壁高さH560

壁高さH561

壁高さH562

壁高さH563

壁高さH564

壁高さH565

壁高さH566

壁高さH567

壁高さH568

壁高さH569

壁高さH570

壁高さH571

壁高さH572

壁高さH573

壁高さH574

壁高さH575

壁高さH576

壁高さH577

壁高さH578

壁高さH579

壁高さH580

壁高さH581

壁高さH582

壁高さH583

壁高さH584

壁高さH585

壁高さH586

壁高さH587

壁高さH588

壁高さH589

壁高さH590

壁高さH591

壁高さH592

壁高さH593

壁高さH594

壁高さH595

壁高さH596

壁高さH597

壁高さH598

壁高さH599

壁高さH600

壁高さH601

壁高さH602

壁高さH603

壁高さH604

壁高さH605

壁高さH606

壁高さH607

壁高さH608

壁高さH609

壁高さH610

壁高さH611

壁高さH612

壁高さH613

壁高さH614

壁高さH615

壁高さH616

壁高さH617

壁高さH618

壁高さH619

壁高さH620

壁高さH621

壁高さH622

壁高さH623

壁高さH624

壁高さH625

壁高さH626

壁高さH627

壁高さH628

壁高さH629

壁高さH630

壁高さH631

壁高さH632

壁高さH633

壁高さH634

壁高さH635

壁高さH636

壁高さH637

壁高さH638

壁高さH639

壁高さH640

壁高さH641

壁高さH642

壁高さH643

壁高さH644

壁高さH645

壁高さH646

壁高さH647

壁高さH648

壁高さH649

壁高さH650

壁高さH651

壁高さH652

壁高さH653

壁高さH654

壁高さH655

壁高さH656

壁高さH657

壁高さH658

壁高さH659

壁高さH660

壁高さH661

壁高さH662

壁高さH663

壁高さH664

壁高さH665

壁高さH666

壁高さH667

壁高さH668

壁高さH669

壁高さH670

壁高さH671

壁高さH672

壁高さH673

壁高さH674

壁高さH675

壁高さH676

壁高さH677

壁高さH678

壁高さH679

壁高さH680

壁高さH681

壁高さH682

壁高さH683

壁高さH684

壁高さH685

壁高さH686

壁高さH687

壁高さH688

壁高さH689

壁高さH690

壁高さH691

壁高さH692

壁高さH693

壁高さH694

壁高さH695

壁高さH696

壁高さH697

壁高さH698

壁高さH699

壁高さH700

壁高さH701

壁高さH702

壁高さH703

壁高さH704

壁高さH705

壁高さH706

壁高さH707

壁高さH708

壁高さH709

壁高さH710

壁高さH711

壁高さH712

壁高さH713

壁高さH714

壁高さH715

壁高さH716

壁高さH717

壁高さH718

壁高さH719

壁高さH720

壁高さH721

壁高さH722

壁高さH723

壁高さH724

壁高さH725

壁高さH726

壁高さH727

壁高さH728

壁高さH729

壁高さH730

壁高さH731

壁高さH732

壁高さH733

壁高さH734

壁高さH735

壁高さH736

壁高さH737

壁高さH738

壁高さH739

壁高さH740

壁高さH741

壁高さH742

壁高さH743

壁高さH744

(イ) 主管(室外側の分岐～室内側の第一分岐間)：図1のB部

最長(室外機から最も近い室内機まで)が90m(実長)以上の場合、下表の通り吸入ガス管・液管の主管サイズを変更してください。
※最長90m(実長)以上の場合でも、吐出ガス管のサイズは変更しません。

室外機	主管			サイズアップ後の配管サイズ				
	吸入ガス管	吐出ガス管	液管	吸入ガス管	吐出ガス管	液管		
224	φ19.05×t1.0	φ15.88×t1.0	φ9.52×t0.8	φ22.22×t1.0	φ15.88×t1.0	φ12.7×t0.8		
280	φ22.22×t1.0			φ25.4×t1.0	φ19.05×t1.0			
335	φ19.05×t1.0							
400	φ25.4×t1.0			φ28.58×t1.0				
450	φ28.58×t1.0	φ22.22×t1.0	φ12.7×t0.8	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0	φ15.88×t1.0		
504					φ25.4×t1.0		φ19.05×t1.0	
560								φ25.4×t1.0
615					φ31.8×t1.1		φ25.4×t1.0	
680	φ28.58×t1.0	φ15.88×t1.0						
735			φ38.1×t1.35	φ28.58×t1.0		φ19.05×t1.0		
800								φ31.8×t1.1
850					φ31.8×t1.1		φ22.22×t1.0	
900	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0						
960			φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0				
1010						φ31.8×t1.1		φ22.22×t1.0
1065					φ31.8×t1.1		φ22.22×t1.0	
1130	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0						
1180			φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0				
1235						φ31.8×t1.1		φ22.22×t1.0
1300					φ31.8×t1.1		φ22.22×t1.0	
1360	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0						

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用ください。

(ウ) 室内側の第一分岐～室内側の分岐間：図1のC部

下流に接続される室内機の容量の合計により下表により選定ください。但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

室内機合計容量	吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
70未満	φ12.7 × t0.8	φ9.52 × t0.8	φ 9.52× t0.8
70以上～ 180未満	φ15.88× t1.0	φ12.7 × t0.8	
180以上～ 371未満	φ19.05× t1.0	φ15.88× t1.0	φ12.7 × t0.8
371以上～ 540未満	φ25.4 × t1.0	φ22.22× t1.0	
540以上～ 700未満	φ28.58× t1.0	φ25.4 × t1.0	φ15.88× t1.0
700以上～1100未満	φ31.8 × t1.1	φ28.58× t1.0	
1100以上	φ38.1 × t1.35	φ31.8 × t1.1	φ19.05× t1.0

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用ください。

※1：下流に室内機280を接続する場合かつ主管のガス管サイズがφ22.22以上の場合には、φ22.22×t1.0を使用ください。

(エ) 室内側分岐～室内機間：図1のD部

室内機接続配管サイズ表 但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

分流通ントローラより下流では吐出ガス管の接続は不要です。

室内機	容量	吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
	22、28	φ 9.52× t0.8	φ 6.35× t0.8	φ 6.35× t0.8
	36、45、56	φ12.7 × t0.8	φ 9.52× t0.8	
	71、80、90、112、140、160	φ15.88× t1.0	φ12.7 × t0.8	φ 9.52× t0.8
	224	φ19.05× t1.0	φ15.88× t1.0	
	280	φ22.22× t1.0	φ19.05× t1.0	

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用ください。

(4) 室外側分岐管セット選定

本分岐管セットは室外組合せユニット時に必ず必要となります。
(単独ユニットとして使用する場合は必要ありません。)

お願い

- 室外機との接続管は室外機の接続配管サイズに合わせてください。
- 室内機側への配管(＝主管)は主管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“水平分岐”又は“垂直分岐”するように設置してください。

(5) 室内側分岐セット選定

(ア) 分岐管セット選定方法

●分岐管サイズは室内機の接続容量(下流の合計容量)により異なりますので右表より設定ください。

お願い

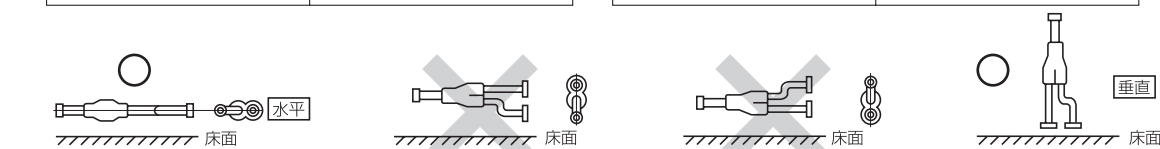
- 室内機と室内側分岐管の配管サイズは室内機の接続配管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“水平分岐”又は“垂直分岐”するように設置してください。

＜分流通ントローラより上流の場合＞

下流の合計容量	分岐管セット型式
～180未満	DIS-22-1-R
180以上～371未満	DIS-180-1-R
371以上～540未満	DIS-371-1-R
540以上	DIS-540-1-R

＜分流通ントローラより下流の場合＞

下流の合計容量	分岐管セット型式
～180未満	DIS-22-1
180以上～371未満	DIS-180-1
371以上～540未満	DIS-371-1
540以上	DIS-540-1



5

(6) 分流通ントローラ選定

- 下流に接続される室内機の合計容量により右表から選定ください。
- 各分流通ントローラに接続可能な室内機の台数は右表の通りです。
- 液管の分流通ントローラとの接続は不要です。
- 分流通ントローラより下流では吐出ガス管の接続は不要です。
- 分流通ントローラに室内機が未接続の状態でもユニットの運転はしないでください。
- 室外機に接続する分流通ントローラの台数制限は下記のとおりです。

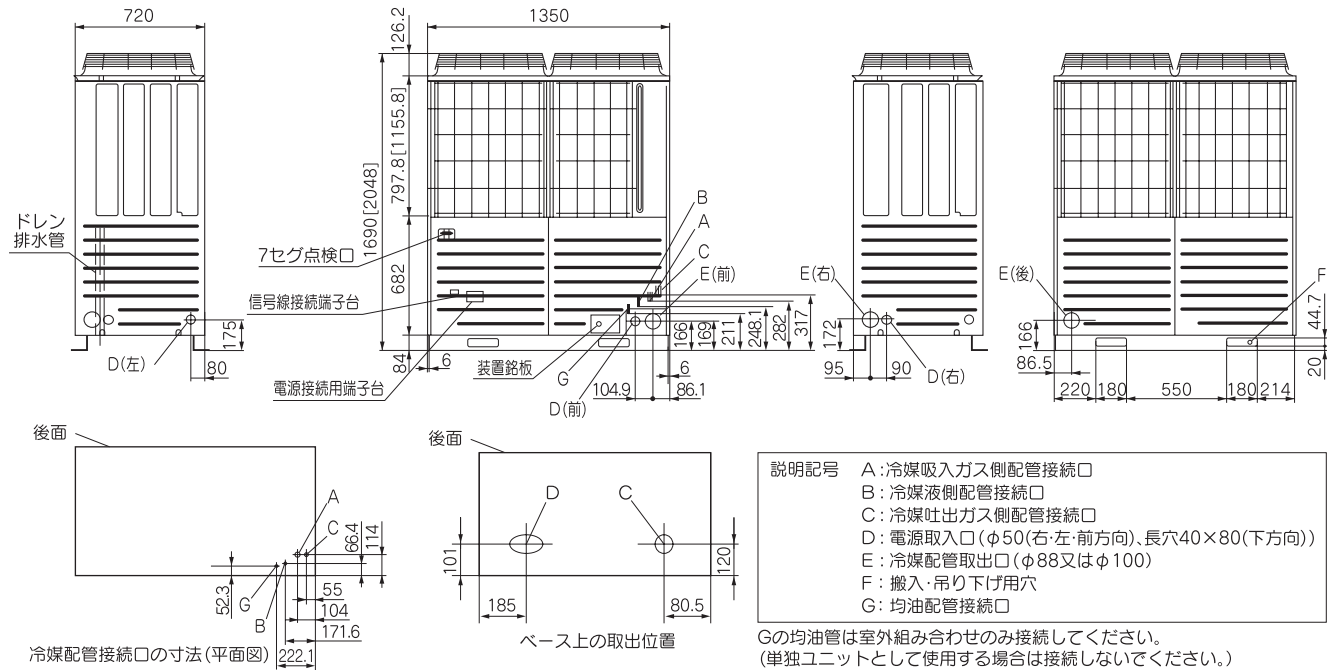
室外機	最小接続台数
～280	2台
～560	4台
～850	6台
～1130	8台
～1360	10台

下流の合計容量	分流通ントローラ	接続可能台数
～112未満	PFD112	1～5
112以上～180未満	PFD180	1～8
180以上～280以下	PFD280	1～10

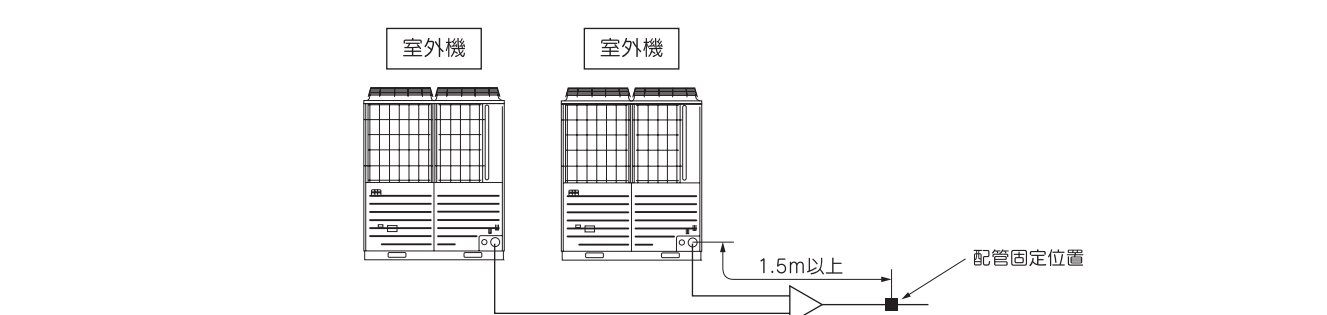
4-2. 配管工事

(1) 配管接続位置と配管取出方向

本図は容量450以下の図を示していますが、504以上もユニット高さが違うのみで配管接続位置と取出方向は同じです。
[]内の寸法が504以上のユニット寸法を示します。



- 配管の取出しは上図に示す通り前・右・下・後が可能です。
- 現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフフランク(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落としご使用ください。
- 配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を閉鎖材(現地手配)で塞いでください。
- ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出し口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
- 現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。
- 現地配管の固定は下図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。(防振方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)



4-3. 気密試験・真空引き

(1) 気密試験

- ①室外機本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管および室内機の気密試験を室外機側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。尚、**操作弁は必ず開のまま**にして実施してください。
- ②気密試験は、窒素ガスで機器の設計圧力まで、冷媒配管内を下記の要領で加圧して行うため、下図を参考にし器具類を接続してください。
加圧ガスには塩素系冷媒及び酸素や可燃ガスなどは絶対に使用しないでください。
操作弁は閉じたまです。絶対に開かないでください。
必ず液管、ガス管、均油管すべて加圧してください。
- ③加圧要領は以下の通り一度に設計圧力までしないで、徐々に行ってください。
(ア) **0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
(イ) **次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
(ウ) その後、設計圧力(4.15MPa)まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
(エ) 規定時間で**約1日放置し、圧力が低下していなければ合格**です。
この際周囲温度が1℃変化すると圧力が約0.01MPa変化しますので補正を行ってください。
(オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下が認められた場合には漏れがあります。
漏れ箇所、フレア部等に発泡試験液を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
- ④気密試験後の真空引きを必ず実施ください。

ご注意
加圧しすぎると室外機に窒素が混入する恐れがあります。

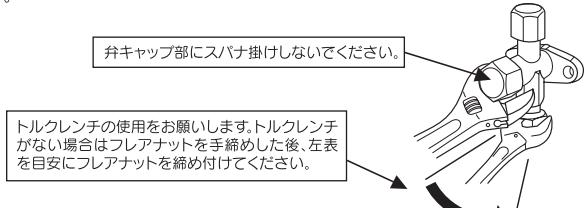
(2) 現地配管施工

- 施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意ください。
- 現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。**
- 配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生**(濡してろう付け又は粘着テープによる)を十分に行ってください。
- 配管の曲げはできるだけ**大きな半径(配管径の4倍以上)**で行ってください。曲げ直しを何度も行わないでください。
- 室外機の液管と冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付け後、フレア加工を行ってください。
R410Aのフレア加工寸法は、従来のR407Cとは異なります。R410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整ゲージにて出し代B寸法を調整すれば、従来のツールを使用できます。
- フレア接続はダブルスパナ**でしっかり締め付けてください。フレアナットの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

フレアナット二面幅・H(mm)	銅管外径	H	A	フレア管端部・A(mm)	銅管外径	A	O	フレア加工の銅管出し代：B(mm)	銅管外径	R410A用ツール使用時	従来ツール使用時
	φ6.35	17		φ6.35	9.1				φ6.35		
	φ9.52	22		φ9.52	13.2				φ9.52		
	φ12.7	26		φ12.7	16.6				φ12.7		
	φ15.88	29		φ15.88	19.7				φ15.88		

右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクにて締め付けをお願いします。

操作弁サイズ (mm)	締め付けトルク (N・m)	締め付け角度 (°)	工具の推奨長さ (mm)
φ6.35 (1/4")	14～18	45～60	150
φ9.52 (3/8")	34～42	30～45	200
φ12.7 (1/2")	49～61	30～45	250
φ15.88(5/8")	68～82	15～20	300
φ19.05(3/4")	100～120	15～20	450

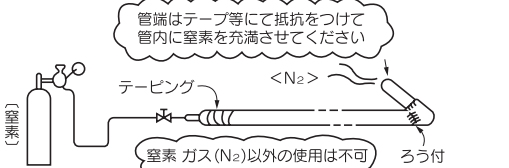


- フレア部に付け油は使用しないでください。
- 室外機のガス管と冷媒配管との接続、及び冷媒配管と分岐管セットとの接続はろう付け方式です。
- ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。**窒素ガスを流さないで多量の異物(酸化皮膜)が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁詰まりによる致命的な故障の原因となります。
- 操作弁と配管とのろう付けは、弁本体を濡れたタオル等で冷やしなが実施ください。
- フラッシングを行う場合には窒素ガスを約0.02MPaで流し、管端を手で塞いで、管内の圧力が上昇したら手を放してください。(この時、他の管端はプラグで塞いでください。)

作業順序

①現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。

②**ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。**窒素ガスを流さないで多量の異物(酸化皮膜)が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁詰りによる致命的な故障の原因となります。



③配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生

(濡してろう付け又は粘着テープによる)を十分に行ってください。



④フラッシングを行う場合には窒素ガスを約0.02MPaで流し、管端を手で塞いで、管内の圧力が上昇したら手を放してください。(この時、他の管端はプラグで塞いでください。)

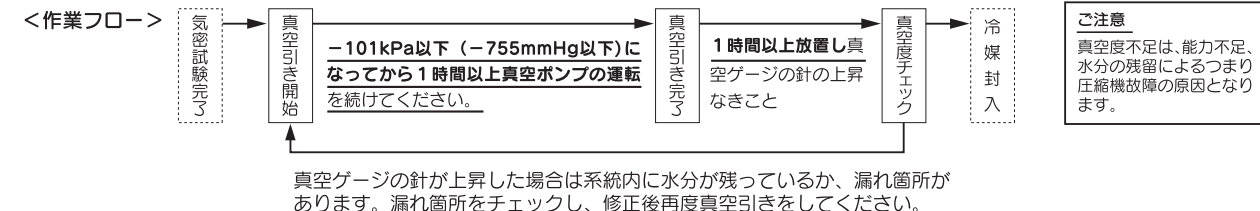


⑤操作弁と配管との**ろう付けは、弁本体を濡れたタオル等で冷やしなが実施**してください。

(2) 真空引き

吸入ガス側操作弁チェックジョイントと吐出ガス側操作弁チェックジョイントの両側から真空引きをしてください。

均油管も必ず真空引きをしてください。(均油管操作弁チェックジョイントを用い単独に行なってください。)



- 本機はR410Aのため下記の点にご注意ください。
 - 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具等を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒(R22、R407C等)と共用しないでください。
 - 真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用ください。

(3) 操作弁の操作方法

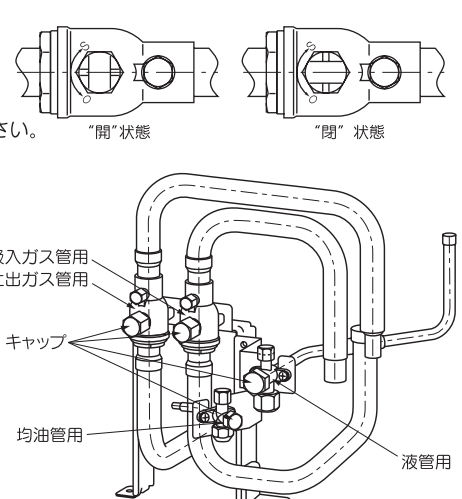
開閉の方法

- キャップをはずし、ガス管側は右図の“開”状態になるよう回してください。
- 液管側と均油管側は、6角レンチ(JISB4648)でシャフトがとまるまで回してください。
過大な力を加えて回くと弁本体が破壊するおそれがあります。必ず専用工具をご使用ください。
- キャップを確実に締付けてください。

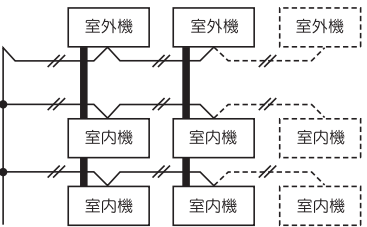
締め付けトルクは下表を参照ください。

	シャフト (弁本体)	キャップ (ふた)	フクロナット (チェックジョイント部)
吸入ガス管用 吐出ガス管用	7以下	30以下	13
液管用	7.85 (MAX 15.7)	29.4 (MAX 39.2)	8.8 (MAX 14.7)
均油管用	4.9 (MAX 11.8)	16.2 (MAX 24.5)	8.8 (MAX 14.7)

フレアナットの締め付けトルクは4-2 (2)の現地配管施工を参照ください。



(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。



リモートコントローラ配線仕様

- リモコン線は0.3mm²×2心 (3LXシリーズ室内機)、3心 (2LXシリーズ室内機) が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。

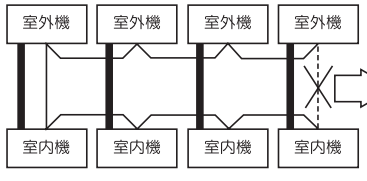
長さ (m)	配線太さ	
	3LXシリーズ室内機	2LXシリーズ室内機
100～200以内	0.5mm ² ×2心	0.5mm ² ×3心
～300以内	0.75mm ² ×2心	0.75mm ² ×3心
～400以内	1.25mm ² ×2心	1.25mm ² ×3心
～600以内	2.0mm ² ×2心	2.0mm ² ×3心

●信号端子台への結線は、M3.5用の右図圧着端子を使用してください。

7mm以下

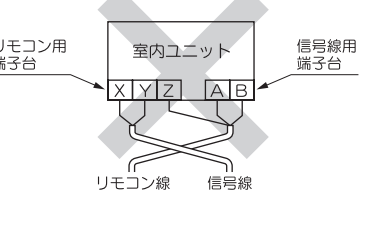
信号配線がループ状となる配線不可 …… 部の配線禁止

重要 ○ループ配線の禁止



室内・外ユニット間の誤配線以外に、以下の誤配線があります。ご注意ください。

①信号線とリモコン線の誤配線



リモコン用端子台

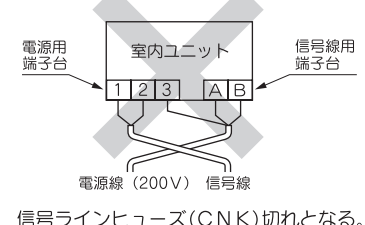
室内ユニット

信号線用端子台

リモコン線

信号線

②信号線端子台への電源線接続



電源用端子台

室内ユニット

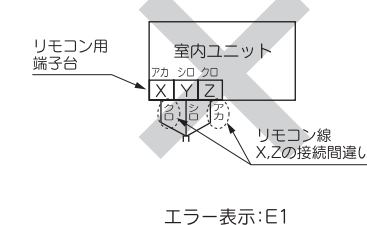
信号線用端子台

電源線 (200V)

信号線

信号ラインヒューズ (C/NK) 切れとなる。

③リモコン線の誤配線



リモコン用端子台

室内ユニット

リモコン線

リモコン線 X,Z の接続間違い

エラー表示: E1

7. コントローラーの設定

7-1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方とも行ってください。室外→室内の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。本機では従来の通信方式 (IBSL) と新通信方式 (新SL) の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の表の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。新SL未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷暖システムが別であっても旧SLでの通信を選択してください。

●アドレス設定後通信ができるようになったら**室外機7セグで通信方式を確認してください。**

●アドレス設定の種類

アドレス設定方法は下記の方法があります。自動アドレスは従来と手法が異なります。本説明書をよく読んでご使用願います。

通信方法		新SL		旧SL	
アドレス方法		自動	手動	自動	手動
複数の冷暖システムを信号線で接続する場合 (例えば集中制御を行う場合)	ケース1 複数の冷暖システムを接続する信号線が室外機間で接続されている場合 (ネットワークコネクタを外した際に各冷暖システムが1系統ずつに分離される状態)	OK ^{※1}	OK	×	OK
	ケース2 複数の冷暖システムを接続する信号線が室内機間で接続されている場合	×	OK	×	OK
冷暖システムが1系統の場合 (信号線が冷暖システムをまたがない場合)		OK	OK	OK	OK

※1 A1・B1に異なる冷暖システムの室外機間信号線を接続しないでください。またA2・B2に同一冷暖システムの室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース3)
A2・B2に室内外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース4)
※2 (ケース2) の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。

13

ネットワークコネクタ

ケース1

ケース2

ケース3

ケース4

不正な配線 (同一冷暖システム室外機の配線をA2・B2に接続している)

不正な配線 (異なる冷暖システムの室外機の配線をA1・B1に接続している)

不正な配線 (室内外間の配線をA2・B2に接続している)

●アドレスNo.設定

基板上の設定SW1～4及びSW5-2、室外基板上の設定SW1、2を「アドレス設定方法一覧」の表のように設定してください。

	SW1, 2	室内No. 設定用 (10の位と1の位)
室内基板	SW3, 4	室外No. 設定用 (10の位と1の位)
SW5-2	室内No. スイッチ (100位) (OFF: 0、ON: 1)	
室外基板	SW1, 2	室外No. 設定用 (10の位と1の位)

SW1 (SW3)

10位

SW2 (SW4)

1位

この溝にドライバー (精密ドライバー) を差し込んで矢印を番号に合わせてください。

●アドレス設定方法一覧 []内はIBSL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内機アドレス設定	室外機アドレス設定		室内機アドレス設定	室外機アドレス設定	
手動アドレス	室内No. SW	室外No. SW	室外No. SW	室内No. SW	室外No. SW	室外No. SW
1 冷暖システム自動アドレス	000	49	49	49	49	49
複数冷暖システム自動アドレス (新SLのみ)	000	49	00～31	不可	不可	不可

本表以外の数値に設定しないでください。エラーが出る場合があります。
注: FDOPO○○2LXシリーズのネットワークなどIBSLのネットワークに新規に追加する場合は、通信方式はIBSLを選択し、手動アドレス設定してください。
FOTP224.280形は室内機1台につき基板が2個ありますので2個の基板それぞれ異なる室内No. SWを設定してください。
●室外No. は室外基板と室内機1台にあり、どの室外機とどの室内機が冷暖配管で結ばれているか示すNo. です。冷暖配管で結ばれた室内・室外機は同一室外No. となるようにしてください。
●室内No. は室内機を確認するためのNo. です。ネットワークの他の室内機と重複しないようにしてください。

以下の手順は特に断りのない場合は通信方式として新SLを選んだ場合の手順です。旧SLを選んだ場合には [] 内の数値に読み替えて作業を行ってください。
[] 手動アドレス設定 新SL/IBSL共通 [] 内はIBSL用の数値

①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室外アドレスが登録されます。
室外No. スイッチを00～31 [IBSLの場合00～47] の範囲で設定してください。
ネットワーク上の他の室外No. と重複しないように設定してください。
組合せの親機の場合も同様に、室外No. 用のロータリスイッチを **00～31 [IBSLの場合00～47] の範囲** で設定してください。
組合せの子機の場合は、室外No. 用のロータリスイッチを**組合せの親機と同じ室外No.**に設定し、さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定にしてください。)

②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。
室内No. スイッチを000～127 [IBSLの場合00～47] の範囲で設定してください。
室外No. スイッチは対応する室外No. を **00～31 [IBSLの場合00～47] の範囲** で設定してください。
ネットワーク上の他の室内No. と重複しないように設定してください。

冷暖システム	室外機	SW1	SW2	SW4-7	ネットワーク上のアドレス
A	親機	2	2	OFF	22
	子機	2	2	ON	23
B	親機	2	4	OFF	24
	子機	2	4	ON	25
C	親機	3	1	OFF	31
	子機	3	1	ON	00

本表は例を示しています。**ネットワーク上のアドレスは子機が親機+1**となります。
ただし、**子機アドレスが31 [IBSLの場合47] を超える場合は00から順次アドレスが設定**されます。
連続するアドレスを設定する場合、冷暖システムBの親機アドレスは、冷暖システムAの子機のアドレスと重複しないように設定してください。

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。
※同一ネットワーク内に新SL未対応機がある場合、SW5-5をON にして通信方式をIBSLとしてください。IBSLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

アドレス設定例 (手動)

子機設定

親機と同一No. 設定 (ネットワーク上No. は+1)

他系統親・子機No. との重複注意ください。(1つとびの設定)

--- は信号線 (A・B) を示します。
--- は冷暖配管を示します。

自動アドレス設定 新SL/IBSL共通 [] 内はIBSL用の数値

新SLでは従来の冷暖システムが1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷暖システムを信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。
(1)冷暖システムが1系統の場合 (新SL/IBSL共通 [] 内はIBSL用の数値)

①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。
室外No. スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。
・**組合せの親機の場合も同様**に、室外No. 用のロータリスイッチを**出荷時の49**の設定を確認してください。
・**組合せの子機の場合も同様**に、室外No. 用のロータリスイッチを**出荷時の49**の設定を確認してください。
さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。

室外機	SW1	SW2	SW4-7	ネットワーク上のアドレス
親機	4	9	OFF	49
子機	4	9	ON	00

②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。
室内No. スイッチが出荷時の000 [IBSLの場合49] に設定されていることを確認してください。
室外No. スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。(2)の手順のように7セグで設定を行う必要はありません。
④室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグにて表示される室内機台数と実際に冷暖配管が接続されている室内機の台数が一致するか確認してください。

(2)冷暖システムが複数の場合 (新SLのみ可能。IBSLの場合、手動アドレス設定してください)
(冷暖システムを接続する信号線が室外機間で接続されており、通信方式として新SLを選択した場合のみ実施できます。)

操作手順 (各室外機で実施願います)
[STEP1] (電源投入前実施内容)

①室外機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。
室外No. スイッチを00～31の範囲で設定してください。ネットワーク上の他の室外No. と重複しないように設定してください。
組合せの親機の場合も同様に、室外No. 用のロータリスイッチを **00～31の範囲** で設定してください。
組合せの子機の場合は、室外No. 用のロータリスイッチを**組合せの親機と同じ室外No.**に設定し、さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定にしてください。)

②室内機のアドレス設定

電源投入前に次のとおり設定してください。
室内No. スイッチが出荷時の000に設定されていることを確認してください。
室外No. スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。
各室外機の**ネットワークコネクタ (白色2P)** を外してください。(接続したまま電源投入されると誤設定となります。)

③自システムを分離

[STEP2] (電源投入と自動アドレス設定)

④室外機室内機電源投入 室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。
⑤各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグのP31で "1" を選択して確定をし、自動アドレス開始を入力してください。
⑥開始アドレスと室内機接続台数の入力 各室外機7セグのP32で室内機の開始アドレスを入力してください。
⑦開始アドレスを設定すると接続台数入力表示に戻ります。
各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグで室内機接続台数を入力してください。各室外機ごとの接続台数 (組合せの場合: 同一冷暖系統の接続台数) を入力願います。(7セグのP33で入力できます) 接続室内機が入力されたら7セグ表示は「AUX」となり点滅します。

[STEP3] (自動アドレス完了確認)

⑧室内機アドレス決定
室内機アドレスが確定したら7セグが「AUE」となり点滅します。このときエラーがあれば「A○○」表示となります。各室外機 (組合せの場合: 親機) の表示を確認願います。
室内機接続台数により確定するまで**10分程度**かかる場合があります。

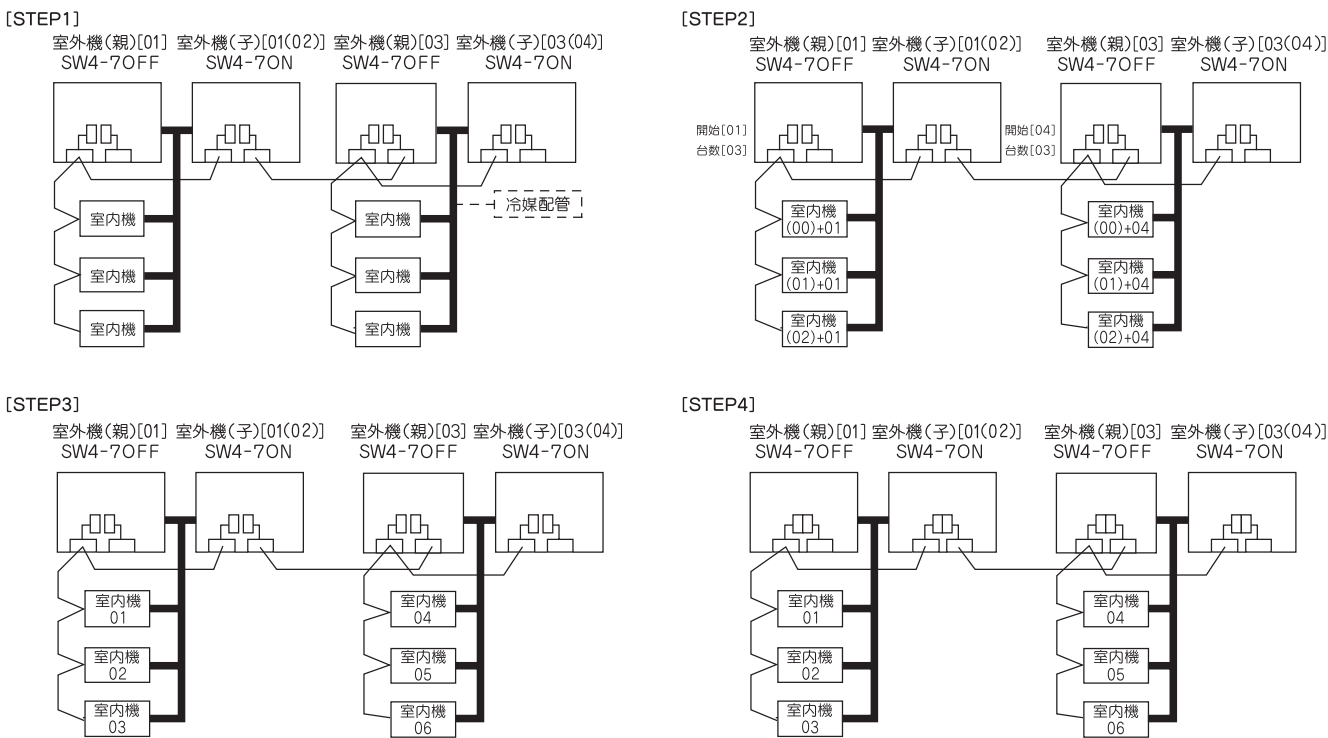
[STEP4] (ネットワーク確定設定)

⑨ネットワーク接続
各室外機 (組合せの場合: 親機) ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。

⑩ネットワーク極性設定
ネットワーク極性設定
ネットワークコネクタの接続を確認後、ネットワークの極性設定のため、**任意の室外機1台のみ (組合せの場合: 親機1台のみ)**より7セグのP34で "1" を選択して確定をしてください。

⑪設定完了確認
ネットワークが確定したら各室外機 (組合せの場合: 親機) の7セグに「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後消灯します。

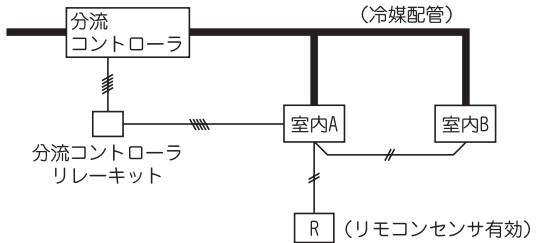
	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機 (室内/室外 No. SW)	⑥内000 /外 49 (出荷時)	—	—	—
室外機 (室外 No. SW)	①01.03 (例)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑨接続 (各室外機)
自動アドレス開始設定	—	⑥各室外で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑥外01: [01] (例) 外03: [04] (例)	—	—
接続台数設定	—	⑦外01: [03] (例) 外03: [03] (例)	—	—
極性設定	—	—	—	⑩任意室外機から7セグP34セット
7セグ表示 (組合せの場合: 親機)	—	⑦ [AUX] (点滅)	⑧ [AUE] (点滅) エラー時は [A○○] 表示	⑪ 「End」



7-4. 分流通ローラ下流の室内機の設定

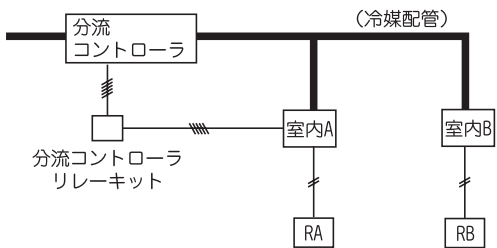
分流通ローラの下流に複数台の室内機を接続する場合は、下記何れかの方法により全て同一の冷/暖モードで運転するように設定してください。

- (1) リモコン1台による複数室内機制御
1台のリモコンにより全ての室内機の運/停・冷/暖モード・設定温度等を同一に制御できます。



- 1台のリモコンを下流の全ての室内機に接続してください。
- リモコンセンサを有効にしてください。

- (2) 運転モード親子室内機制御
室内機個々に接続したリモコンにより **冷/暖モード以外** を個別に制御できます。
冷/暖モードについては分流通ローラリレーキットがつながった室内機のリモコンからのみ設定可能です。



- 下流の室内機1台毎に全てリモコンを接続してください。
- 下記リモコン操作により、分流通ローラリレーキットが **つながっていない** 全ての室内機 (=予室内機：室内B) にリレーキットが **つながった** 室内機 (=親室内機：室内A) のアドレスを設定してください。
- 親室内機は特別な設定をする必要はありません。

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	① 予室内機のリモコン (RB) のエアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	② ◆を押す毎に表示が切り換わります。	「アドレス変更▼」 ⇔「親室内アドレス▲」
	③ 「親室内アドレス▲」表示のときにセットスイッチを押してください。これでアドレスセットモードとなり、親室内No.設定表示となります。	「内・・・▲」(点滅)
2 新室内No.の設定	④ ◆スイッチにより親室内No. をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1ずつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇔「内 001◆」 ⇔「内 002◆」 ⇔「内 003◆」 ⇔「内 127▼」
	⑤ アドレス選択後、セットスイッチを押してください。親室内No. を確定します。	「内 002」(2秒点灯) →「設定完了」(2秒点灯) →停止状態に戻る

◆スイッチを0.75秒以上押しつづけることで0.25秒毎に表示を連続して1ずつ切換ええます。
・操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。運転/停止スイッチを押すと本モードを終了し停止状態に戻ります。

<注意事項>

- (ア) 本操作はユニット停止中のみ実施可能です。
(イ) 本制御により親室内機No. を決定した室内機のリモコンにて運転切換スイッチを押すと「操作無効です」表示を3秒間点灯し元の状態に戻ります。
(ウ) 関連異常表示

Code	要因
E11	アドレスセットしたリモコンに2台以上の室内機を接続した場合
E18	設定した親室内No. が同一のSLネットワーク上に存在しない場合 又は予室内機として設定済みのアドレスを親室内No. として設定した場合

8. 試運転・引渡し

8-1. 運転を始める前に

- (1) **電源端子台と設置面を500Vメガーで測って1MΩ以上であることを確認**ください。
- (2) 電源投入前に信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。
- (3) **運転6時間前に必ず電源をONとし、クランクケースヒータに通电してください。**
- (4) **圧縮機底部が暖かくなっていることを確認してください。**(外気温+5℃以上)
- (5) 室外機の操作弁(ガス・液・均油管(組合せのみ))は必ず全開にしてください。閉のまま運転しますと圧縮機が故障する場合があります。
- (6) **全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、水漏れになります。**

●注意
試運転前に操作弁(ガス・液・均油管(組合せのみ))の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。

8-2. 試運転

- (1) 室外機からの試運転
室外基板のSW5-1とSW5-2のスイッチにより、外部入力端子のON/OFFにかかわらず室外から試運転ができます。はじめに試運転するモード(冷房/暖房)をお選びください。冷房試運転の場合はSW5-2をONに、暖房試運転の場合はSW5-2をOFFにしてください。(工場出荷時はOFFです。)
次にSW5-1をOFF→ONにすることで、接続されているすべての室内機を運転します。試運転終了後はSW5-1をOFFとしてください。
●注意：試運転中は、室内機のリモコンからの操作(変更)はできません。(集中管理中の表示がです。)
- (2) 室内側からの冷房試運転方法。リモコンを次の手順で操作してください。
(ア)冷房試運転の開始
 - ① **運転/停止** ボタンを押して運転します。
 - ② **運転切替** ボタンにより「冷房」を選択します。
 - ③ **試運転** ボタンを3秒以上押します。「項目◆で選択」→「**セット**」で決定→「冷房試運転▼」と表示が切り換ります。
 - ④ 「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。(イ)冷房試運転解除
 - ⑤ **運転/停止** ボタンまたは、温度設定 **△** **▽** ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。●注意：配管工事者の方へ、または電気工事者の方へ
試運転終了後、お客様へお引渡しの際に、電装品箱のふた、本体パネルが取り付けであることをもう一度ご確認ください。

8-3. 引き渡し

- 据付、試運転完了後、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。
- 長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご指導ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。(クランクケースヒータにより圧縮機底部が暖められているためシーズンインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)

9. サービス時の注意 (R410A対応機)

- (1) 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具類を使い分けてください。
- (2) 冷凍機油への吸湿を避けるために、冷媒回路の開放時間は極力短くしてください。(10分以内としてください)
- (3) その他配管施工、気密試験、真空引き、冷媒封入に関しては「冷媒配管」をご覧ください。
- (4) 故障診断
故障診断内容はユニットに貼り付けている配線銘板と技術資料を参照してください。
- (5) 7セグLED表示
表示切替スイッチにより、データを表示できます。表示内容はユニットに貼り付けている配線銘板を参照ください。

